



日常の景色にある SDGsを見つけてみる —その3

前回に引き続き、日々の暮らしの中から「持続可能な開発目標 (SDGs)」に関するできごとを探してみましょう。国際化が進む現代、私たちの生活には、海外で作られた製品も日常的に使われています。



▲服を修理して使い続けることも SDGs につながる
(撮影 = 江見彩香)

例えば、私たちが着ている服の商品タグを見てみると、海外で作られているものも多いのではないのでしょうか。海外で製造された1着の服で考えてみると、原材料の調達から日本の店頭に並ぶまでに、500mlのペットボトル約255本を製造するのと同量の二酸化炭素が排出され、浴槽約11杯分の水が使われるなどの環境負荷がかかります*。

そのため、まだ着ることができる服を簡単に捨てて新しい服を買うのではなく、修理したり、仕立て直したりして丁寧に使い続けることも、SDGsの視点で見れば「つくる責任つかう責任 (ゴール 12)」をはじめ、いくつものゴールの達成に貢献できる行動です。

昨年11月に、市役所の地下にある「開かれたアトリエ」で開催された「ボンボンマルシェ」でも、服やアクセサ

リーを修理してくれる「あっぱれお直し」という企画が好評でした。まずは「大切な服を長持ちさせる」といった身近なことから、SDGsを考えてみませんか。

*出典：環境省ウェブサイト

[SUSTAINABLE
FASSION]



高木 超 (たかぎ・こすも) 文章

- ▶ 慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 特任助教
亀岡市参与 (SDGs アドバイザー)

江見 彩香 (えみ・あやか) 写真

- ▶ 元ファインダー女子広報部
女子学生による亀岡のPR隊
“ファインダー女子広報部”
(2018-2019) として活動。
現在、プロのフォトグラファー
として奮闘中!

